

# 本書の使い方

各項目の1ページ目は、プローブ位置に対応したエコー画像を俯瞰できる構成となっている。どのような場面で有用な描出かなども記載しているが、あくまで一つの目安として、これに縛られず自由に本書を活用してほしい。

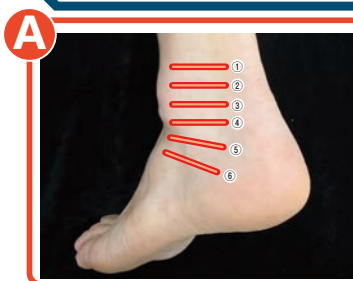
**A** プローブの当て方  
部位に応じたプローブの当て方を示している。

**B** 有用な場面  
エコーによる観察が鑑別に有用となる疾患・障害や、インターベンションを示している。

**C** 観察できる像  
各プローブ位置で観察されるエコー画像を一覧にまとめている(番号は**A**と対応)。

Part8 ● 足関節～足部

## 4 足関節後外側 **短軸**



肢位：足関節自然底屈位

有用な場面：

鑑別：

腓骨筋腱症/腓骨筋腱脱臼/踵腓靭帯損傷/  
距骨下関節内水腫

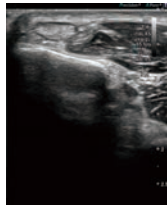
インターベンション：

腓骨筋腱注射/距骨下関節内注射/  
腓腹神経注射

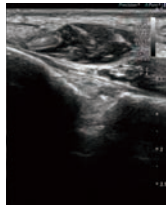
**B**

### 観察できる像

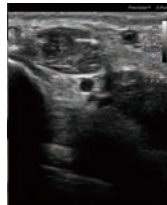
描出①



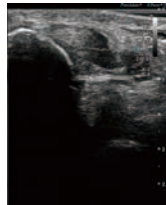
描出②



描出③



描出④



描出⑤

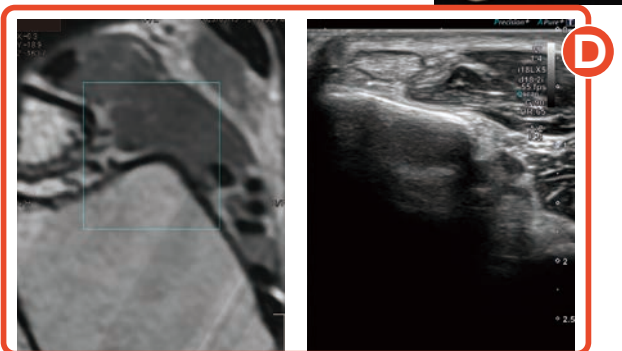


描出⑥



2 ページ目以降は、同一症例におけるエコー画像と MRI 画像を比較しながら解剖を学べる構成となっている。MRI とのフュージョンを通し、よりエコー画像の見方への理解を深めることができる。必要なときに参照し、日々の臨床に役立ててほしい。

### 描出①



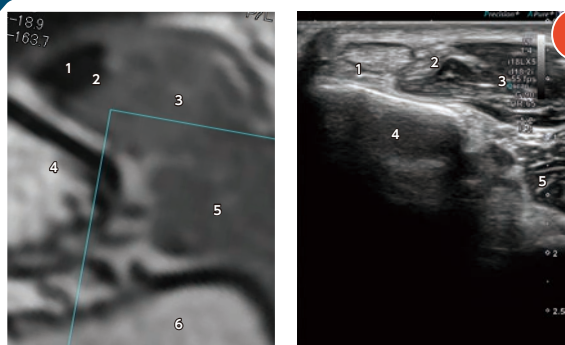
### Part 8

4 足関節後外側

**D** エコー画像とMRI画像の比較-①  
右側にはエコー画像，左側には対応する MRI 画像（3D T2 強調画像）を掲載している。

※本書のエコー画像，MRI 画像は「Aplio i700」（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）の Smart fusion 機能で得られた画像を掲載している。

### 解剖



- |                                    |   |                                   |
|------------------------------------|---|-----------------------------------|
| 1: 長腓骨筋腱<br>Peroneus longus tendon | 2: 短腓骨筋腱<br>Peroneus brevis tendon        | 3: 短腓骨筋<br>Peroneus brevis muscle |
| 4: 腓骨<br>Fibula                    | 5: 長母趾屈筋<br>Flexor hallucis longus muscle | 6: 脛骨<br>Tibia                    |

**E** エコー画像とMRI画像の比較-②  
右側に **D** のエコー画像を再掲したうえで，左側に **D** の MRI 画像を部分拡大して掲載している。画像上の各数字は画像直下の解剖部位に対応している。

※本書の体裁上，MRI 画像は Smart fusion 機能で表示されるエコー画像との対応範囲（□）を目安として，掲載するエコー画像により近い範囲をトリミングしている。